



『知的資産と知財教育』

～次世代知財・無形資産ガバナンスへの
パラダイムシフト～

関西知財・無形資産ガバナンス・フォーラム
杉浦淳教授 講演予測レポート

マクロ背景：知財を経営課題へと押し上げる2つの「波」

内閣府「知的財産推進計画2026」

成長戦略分野へのIPランドスケープ
(IPL) の実行推進。

国策として、知財情報を
経営戦略に組み込むことが標準化。

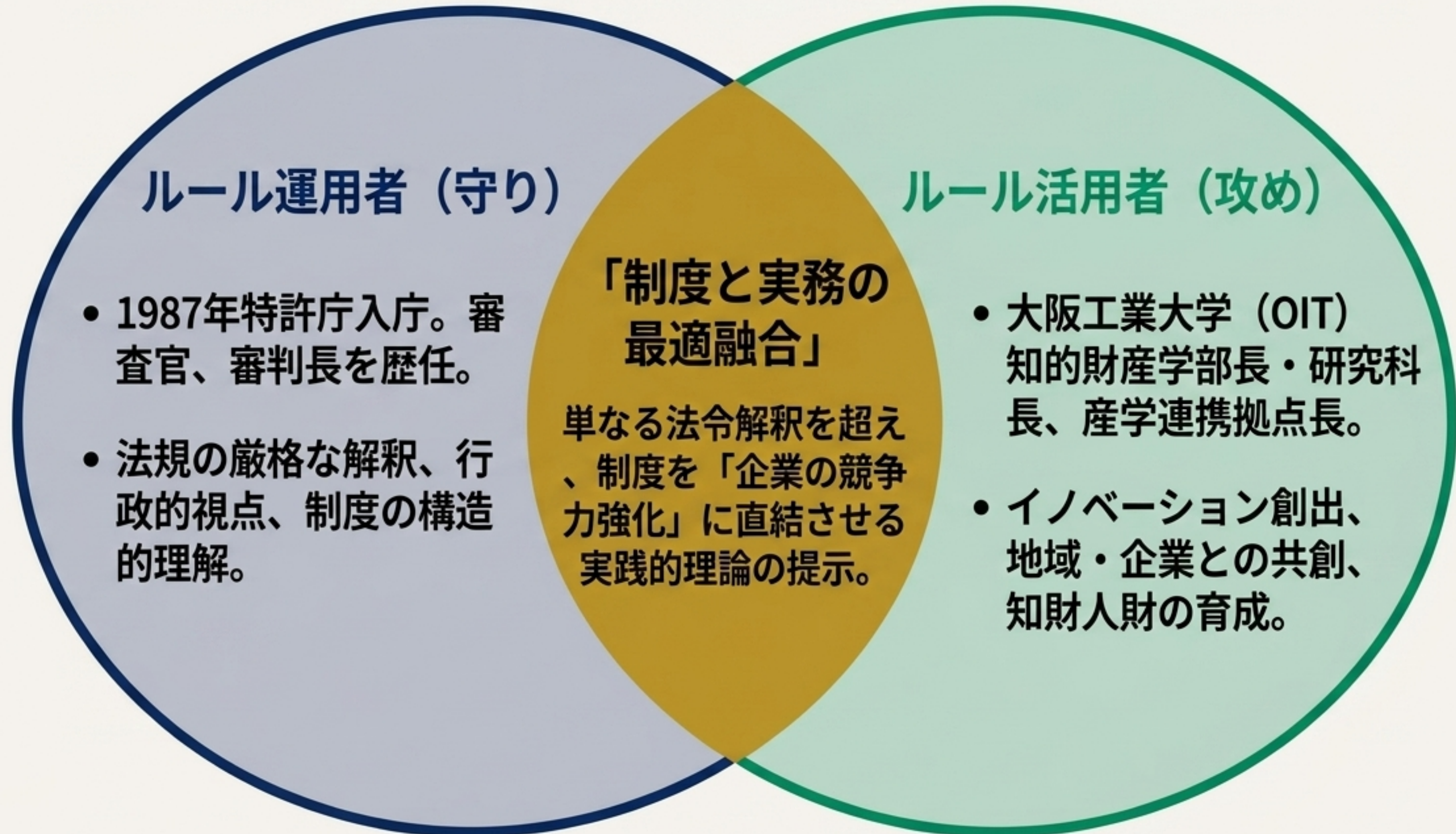
金融庁コーポレートガバナンス・ コード (CGC) 改訂 新原則4-1

無形資産・人的資本への
投資開示義務。

取締役会に対し、知財を「コスト」では
なく「持続的成長のための投資対象」
として扱うことを要求。

「知財」は法務部門の専権事項から、経営陣の「投資領域」へと完全に移行した。

杉浦淳教授の視座：制度運用とイノベーションの交差点



第1のシフト：「知的財産（IP）」から「知的資産（IA）」へ

知的財産
(Intellectual Property: IP)

特許権、商標権、著作権

法的な独占権・差止権を基盤とした
「防衛的（守り）」な機能。

知的資産
(Intellectual Assets: IA)

技術ノウハウ

顧客ネットワーク

組織風土

経営理念

人的資本

投資家と経営陣をつなぐ共通言語は、
表面的な「IPの出願件数」ではなく、
深層にある「IAの価値創出力」である。

法的な権利化に至らないが、企業価値と持続的競争優位性を生み出す「深層の源泉」。

知財部門の役割再定義：手続機関から「知的資産参謀」へ

従来型知財部門

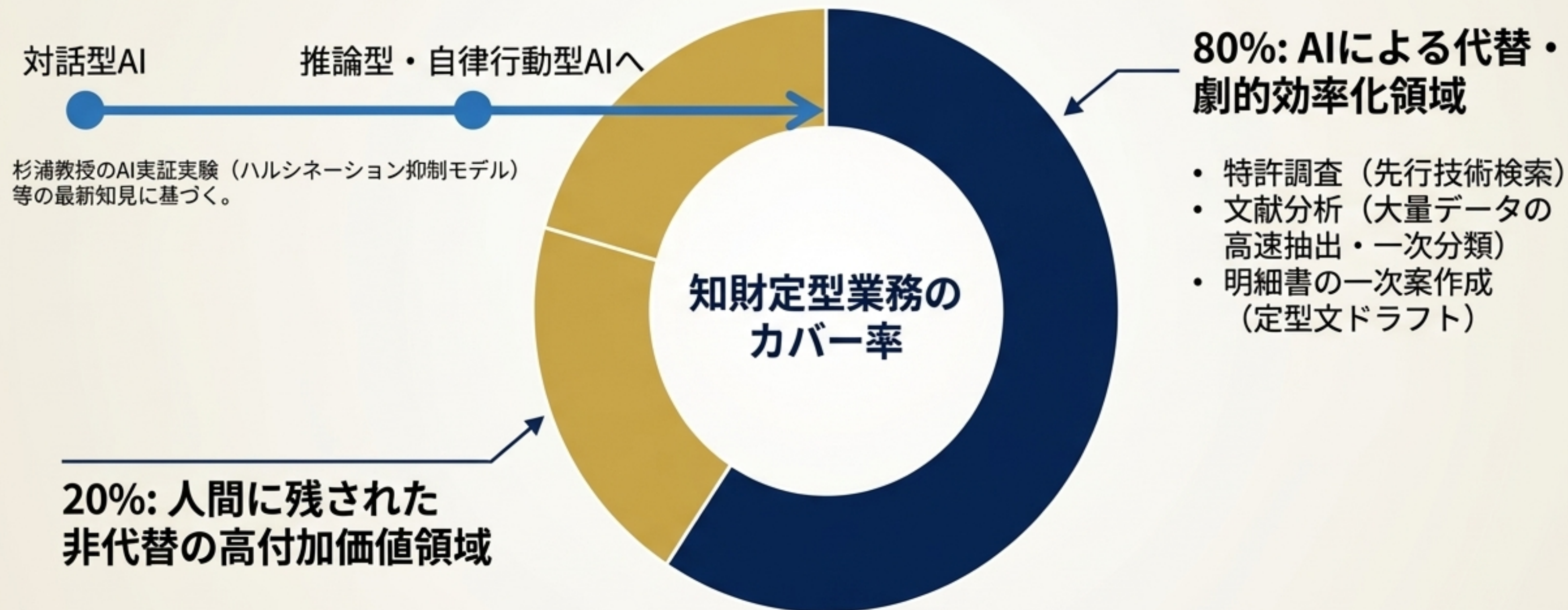
- Role: 特許庁への手続機関
- KPI: 出願件数・権利化数の至上主義
- Focus: 狭義の「権利化 (IP)」に限定された実務

次世代型知財部門

- Role: 知的資産参謀 (IA Strategist)
- KPI: 知的資産と経営戦略の連動による企業価値向上
- Focus: 自社の「知的資産全体 (IA)」を俯瞰・発掘し、取締役会のガバナンス実効化を支援

第2のシフト：生成AIによる「80%」の業務代替

AIの進化



知財実務の80%がAIに委ねられる時代、「人間固有の知財スキル」の再定義が急務となる。

【比較マトリクス】 「作業者」から「コンテキスト・アーキテクト」へ

	従来型（作業者）	生成AIの役割	次世代型 （コンテキスト・アーキテクト）
調査・分析	先行技術検索および 特許マップの作成	大量データの 高速抽出・一次分類	経営課題・市場動向を踏まえた 仮説構築と「文脈」の解釈
権利化・ 明細書	特許請求の範囲 （クレーム）の 文章起草	80点レベルの定型 文章・ドラフト作成	発明の本質把握と、事業防衛・ 多角化を見据えた権利網設計・ ビジネス適合性の判断
経営貢献	他社権利侵害リスク の回避 （防衛的FTO）	リスク要素の 自動フラグ立て	知的資産（ノウハウ・ブランド 等）の組み合わせによる事業 価値最大化・意思決定支援

コンテキスト・アーキテクトに求められる「3つの掛け算」



AI時代の知的財産戦略：人間の役割は高付加価値な「コンテキスト設計」へシフトする。

第3のシフト：大阪工業大学の20年「守りから攻めへ」

2003年

日本初の知的財産学部設立
(守りの知財実務教育の確立)。

現在～未来

経営・事業に寄与する
「攻めの知財教育」への移行と体系化。

教育課程編成上の参照基準

杉浦教授らが策定を主導した、大学教育と産業界を結ぶ基軸。

8つの専門的能力

法的知識、出願実務から
IPランドスケープまで。

3つの汎用的能力

コミュニケーション、
論理的思考、経営視点。

「知財を経営に活かす人財」を安定的・構造的に輩出する土台。

「知財教育のスコープ」の垂直的・水平的拡張

ライフステージの拡張

社会人・実務家に向けた
高度なリスキリング。

大学専門教育。

初等・中等教育 (K-12)

「知財創造教育」(創造性
と権利尊重の素養育成)。

知財専門学科。

普通科高校・工業商業高校

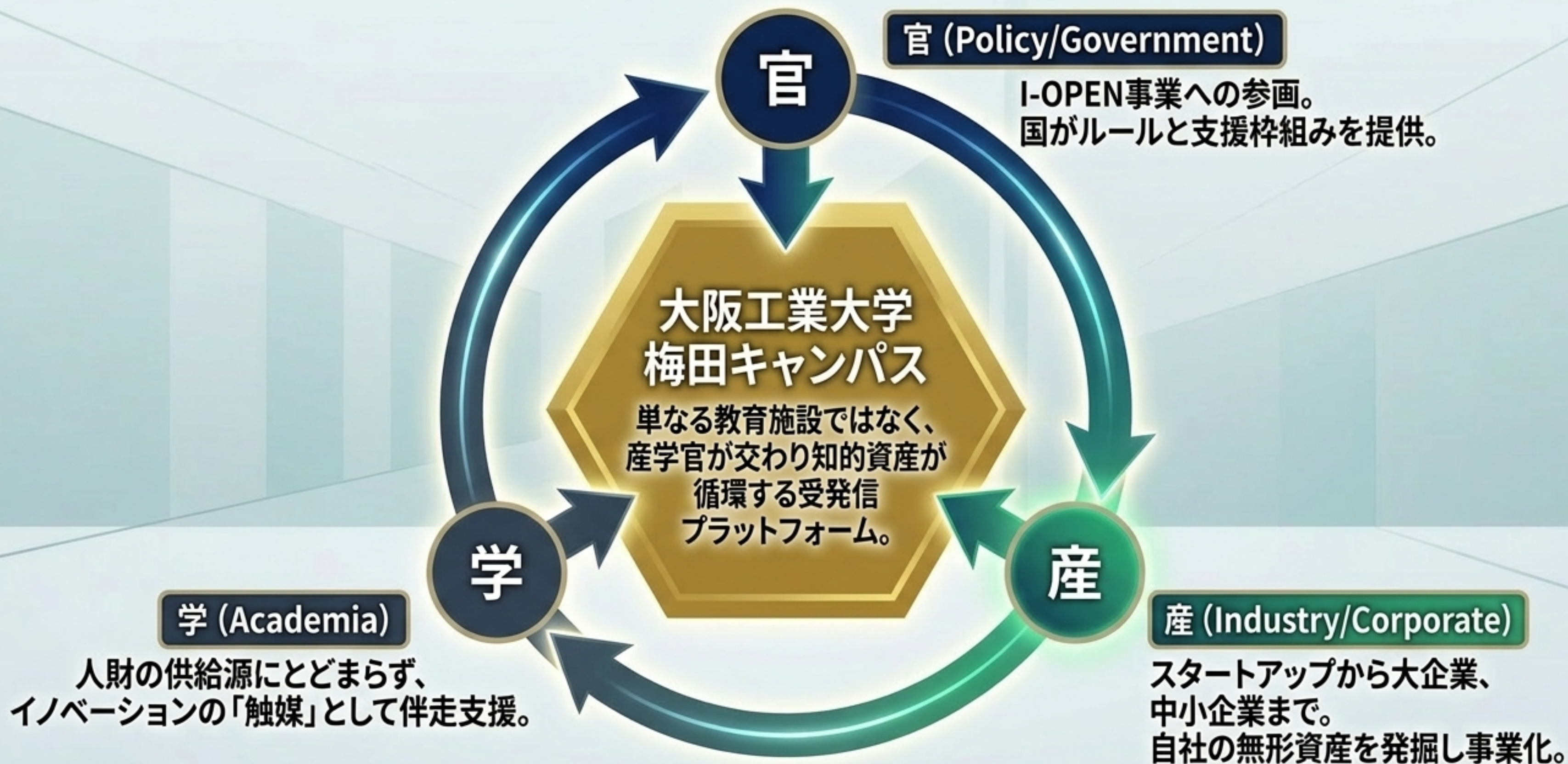
「探求学習対応型知財教育」。

文理横断的教育。

学問領域の
拡張

知財教育の対象は「点(専門家)」から、
社会全体のリテラシーを底上げする
「面」へと拡張している。

第4のシフト：関西発・知的資産エコシステムの構築



統合：本フォーラムにおける杉浦教授の論点接続

政策・制度論 (内閣府 清水氏)

国家戦略とCGC新原則4-1。

大企業組織 (ダイキン 安部氏)

クリエイティブな知財部運営。

中小企業 (エンジニア 高崎氏)

現場発の実利重視知財活用。

教育・人的資本 (杉浦教授)

【The Connecting Logic】

政策を実効化し、大企業でアーキテクトとして動き、
中小企業で知財マインドを発揮する。
すべての基盤は「知財経営人財(人的資本)」の育成にある。

パネルディスカッションへの最強の「橋渡し」。

Executive Summary：次世代知財ガバナンスへの3つの視座

01.

IPからIAへの視座転換

経営と投資家をつなぐ共通言語は、表面的な特許権（IP）ではなく、企業価値の源泉である知的資産（IA）である。

02.

AIを凌駕するコンテキスト設計力

生成AIが80%の実務を代替する時代、人間に求められるのは法・技術・経営を統合し、文脈を設計する「コンテキスト・アーキテクト」の役割である。

03.

産学官エコシステムによる価値循環

優れたガバナンスと戦略の実効性は、最終的に「人」に依存する。
知財教育の拡張と産学連携こそが、関西発無形資産ドリブン経営の推進力となる。

「知的財産を経営の力に変える核心は、最終的に『人財』にある。」